

外国語科

言語活動の充実をめざした授業づくりの研究(2)

—「買い物（ハンバーガーを注文する）」の授業実践を通して—

松尾 砂織

1 はじめに

中学校で新学習指導要領に基づく教科指導が完全実施されて2年目、小学校外国語活動との円滑な接続、4技能の総合的な育成や統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成、文法指導と言語活動の一体化等、改訂の基本方針を踏まえながら、思考力、判断力、表現力を育む指導方法の工夫・改善を進めている。そして昨年度は、小中外国語部会を立ち上げ「小中連携を意識した学習指導の在り方」をテーマに、主に小学校と中学校との教材の繋がりに視点を置き、関連する言語活動を検討してきた。成果として、児童生徒が表現したいことを中心に据え、自己発信できるような体験を重ねることが、学習活動への意欲や動機付けに重要な役割を果たすという可能性を示すことができた。今年度は、そのようなコミュニケーション場面に向かうまでの単元レベルでの言語活動を検討し、中学校における段階的な目標・指導・評価について、新学習指導要領の内容に沿って見直しているところである。

平成24年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を分析すると、教科への関心・意欲の育成が課題として挙げたことから、「主体性」「課題発見力」「向上性」「学ぶことの意義の理解」の4点を中心に、資質・能力の向上を意識して、教科の特性に応じた指導方法の工夫改善を行うことにした。

そこで本研究では、生徒の実態を明らかにした上で、文法事項を活用できる「買い物」のうちハンバーガーを注文する場면을教材として用い、コミュニケーションを内容的に充実したものにする

ことができる授業について考察を行う。

2 研究の方法

(1) アンケート調査の実施

平成25年5月に広島大学附属三原中学校2年生の生徒81名に英語学習に関する意識調査を実施した。本調査の内容は、質問項目に対して5つの尺度で回答する意識調査である。

(2) アンケート調査結果と生徒実態

表1にアンケート調査の結果を示している。

表1 意識調査の結果（数値はパーセント）

5：あてはまる 4：どちらかといえば、あてはまる
3：どちらともいえない 2：どちらかといえばあてはまらない
1：あてはまらない

質問項目	5	4	3	2	1
外国語（英語）の学習は好きだ。	22	30	27	16	5
外国語（英語）の学習は大切だと思う。	65	25	9	0	1
外国語（英語）で学習したことは、将来役に立つと思う。	68	23	6	3	0

表1から「外国語（英語）の学習は大切だと思う」「外国語（英語）で学習したことは、将来役に立つと思う」と回答した生徒は9割を超えている。一方、「外国語（英語）の学習が好きだ」と回答した生徒は52%と半数であることから、学

習の重要さや将来への必要性も感じているものの、学習に意欲を持って取り組める生徒とそうでない生徒がほぼ同数である実態が分かった。

3 実施した単元について

(1) 単元名

「Speaking Plus 3 買い物②（ハンバーガーを注文する）」

(2) 実施時期

平成25年7月

(3) 実施学年と数

中学校2年生82名（男子42名、女子40名）

(4) 単元観について

本単元は、店内で注文する際の応答表現を用いて、伝え合う活動を行う単元である。言語の使用場面は「食事」「買い物」「旅行」であり、特にファースト・フード店で食べ物を注文する場面を想定している。言語材料は、May I help you? Which size~would you like? Would you like anything else? など「注文を尋ねる」表現の他に、I'll have a hamburger, please. Medium, please. No. That's all. Thanks. など「断る」「礼を言う」を扱っている。ロールプレイによる定型表現の反復練習を行いながら、買い物で用いる定型表現を正しく身につけ、それらを運用できる力を身につけることを目標としている。買い物は生徒にとって身近であることから、親しみを持って取り組むことができる単元であると言える。

(5) 集団観と生徒観について

5月に実施した意識調査からは、学習の大切さを分かりつつも、学習意欲の高い生徒とそうでない生徒がほぼ同数であったが、生徒たちの多くは、言語活動に対しては意欲的に取り組む姿を見せる。しかし、基本的な語彙や文構造に対する理解力と、それらを活用する力に差がある。6月7日に実施した校内実力テストの結果を見ると、言語や文化についての知識・理解の正答率が47%、表現や理解の正答率がそれぞれ64%、67%であるのと比較すると低いことが分かった。更に、授業中

のワークシートの書き込みにスペルミスが多いこと、自己表現の時間に、学んだ表現を活用して書いた文数が少ないことから差が伺える。これらのことから、活動には意欲的で一定の理解をして取り組む一方で、基本的な事項の定着具合に差があると言える。

また、挙手をして発表するなど、積極的に意見を言おうとする生徒がいる一方で、全く授業に参加ができない生徒、集中が続かずに授業以外のことに気を取られる生徒もいるなど、学習集団は二極化している。しかし、ペアで対話文を作ったり、作った対話文を覚えてALTに発表したりする活動を行うと、多くの生徒が積極的に取り組むことができる。ただ単に覚えて発表するのではなく、実際の買い物の場面を想定した動作とともに英語が話せるように、練習を重ねた上での発表ができる場を設定する。

(6) 指導にあたって

上記の生徒実態および課題等を踏まえ、本単元では、聞く活動・読む活動・書く活動・話す活動の4つの場面を設定しているため、何を個人で思考し、何を小グループで交流するかを明確に指示していく。ペアで対話を考えて書く場面では、辞書を積極的に用いて書くように指導を行うが、最終的には覚えて発表をするため、他者が聞いて分かる表現を用いること指導を徹底する。4つの技能をバランスよく指導できるように、時間配分に気をつけながら、学習事項の定着率が望ましくない生徒に対して、できる限りの個別指導を行う。

(7) 単元の目標

- ア ペアワークについて積極的に参加している。
(関心・意欲・態度)
- イ 買い物での注文の場面を口頭でやりとりすることができる。(外国語表現の能力)
- ウ 話されている内容から話しての意向を理解できるようにする。(外国語理解の能力)
- エ 買い物の場面に関する表現について理解している。(言語や文化についての知識・理解)

(8) 単元計画(全3時間)

第1次 注文の場面で使用する表現と対話の内容

を理解する 1時間

第2次 対話文を發表したり、友だちの發表を聞いたりする。 2時間

4 授業の実際

〈第1次〉

本時の目標を買い物で使う表現を知り、使えるようになることと設定した。第1次の指導の流れを以下に示す。

〈学習指導の流れ〉

- (1) 英語の挨拶や簡単な会話を通して英語学習への雰囲気づくりをする。
 - ・曜日・日付・天候・時刻等の簡単な応答。
- (2) 本時の学習への見通しを持たせ、学習目標を確認する。
 - ・食べ物・飲み物の絵を提示して、本時とつながりのある簡単な質問を英語です。
I'm so hungry. What do you want?
I'm so thirsty. What do you want?
 - ・スライドの絵を見ながら、生徒には I want の表現を使って答えさせる。
 - ・学習目標を提示し、自己評価カードに目標を記入させながら、学習課題を確認する。

注文する場面で、状況に応じた対話文をつくらう

- (3) スライドを用いて本文の内容を聞かせ、発問をしながら概要を理解させる。
 - ・何を注文しましたか。・注文したサイズは。
 - ・どこで食べますか。
 - ・値段はいくらになりましたか。
 - ・would you like～?が丁寧な言い方であることを説明する。
 - ・新出表現の読み方や発音を確認する。
 - ・値段の言い方を復習する。
- (4) 英文の意味を考えさせながら、暗唱できるまで何度も読ませる。
 - ・個人で音読練習させてから、ペアで口頭練習を行わせる。
 - ・ある場面を提示し、その状況にあう英文を個人で考えて書かせる。
提示場面：2ドル持っている。お腹がすいている。のども渴いている。
 - ・教科書の例文や口頭練習で使った表現を活用して書かせる。
 - ◎スペルミスを見つけた場合は、適宜正しく書くように促す。

・教科書の例文や口頭練習で使った表現を活用して書くように指導する。

May I help you?

Which size ～, would you like?

Would you like anything else?

・ペアで書いた文を覚えてから、口頭練習をさせる。

◎定型表現を含んだ対話文を書こうとしているか。書いたものを覚えようとしているか。

(5) 本時の学習内容を振り返り、次時に向けての見通しを持たせる。

・提出したワークシートのスペルチェックが終わり次第、原稿を暗唱するように伝える。

・自己評価カードに授業の振り返りを書かせてからワークシートを提出させる。

生徒の興味関心をひくための工夫として導入として食べ物や飲み物の絵をスライドで提示しながら(図1)既習表現である I want～. の確認をした。その際にはこれまで学習した英語表現を使いながら次のように話した。“It's about noon now. I'm so hungry. Look at this. There are many kinds of food. What do you want? It's so hot. I'm thirsty. What do you want?” 生徒はスライドを見ながら挙手し“I want to eat a hamburger. I want to drink coke.”など自分の好みに応じて答えていた。習った表現を活用するまでには時間がかかるので、反復練習と自己表現を結びつけながら指導した。

注文の場面で使う表現を導入する場面では、ただ単に音声や文字だけで導入せず、イラストも提示しながら、話している内容を推測しやすいように工夫した(図2)。注文の場面では、アメリカの通貨(ドル)を用いての活動を計画していたので、合わせて通貨の指導も行った(図3)。

新出単語の発音およびアクセント指導に加えて買い物の場面で使用する慣用表現を指導した。第2次は、対話発表の時間なので、買い物の表現を「聞く」「読む」の反復練習を行った。一斉指導だけでは定着が難しい生徒が多いので、チャンクカード(表1)を配布し、個人で覚える活動を行った。机間指導の中で個別に単語の読み方、文の読み方の指導を加えた。

覚えた表現を使って具体的な場面を提示し、対話文を作る練習を行った。提示場面の設定は、「2ドル持っている。お腹がすいている。のども渴いている。」「8ドル持っている。友達が3人いて、お腹がすいている。支払いは私がする。」であり、メニュー表(図5)を見ながら価格を計算し、ワークシート(図6)に記入する練習問題を行った。生徒は、提示された場面(図7)に出てくる人数と所持金を確認し、メニュー表を見ながらそれに合う対話文を考えながら書いた。

次の時間にペアで対話文を作り、覚えて発表させた。表現の幅を広げるために教科書以外のモデル対話例も提示した(図8)。教科書やワークシートを元に、ペアで対話文を作成する場面では、机間指導をしながら個別指導を行った(図9)。

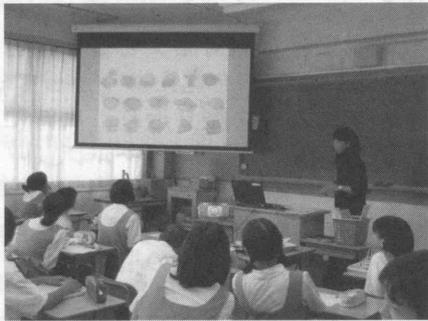


図1 導入時のスライド



図2 注文の表現のスライド

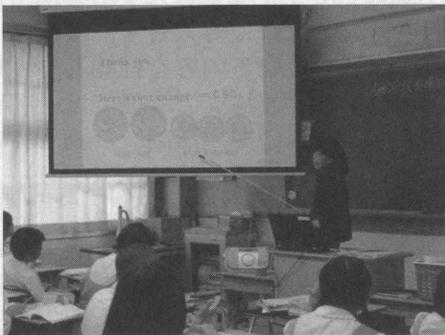


図3 通貨の指導のためのスライド

単位	呼び方	単位	呼び方
1セント	Penny	1ドル	One dollar
5セント	Nickel	5ドル	Five dollars
10セント	Dime	10ドル	Ten dollars
25セント	Quarter	50ドル	Fifty dollars

図4 通貨の単位を示したWS

表1 使用したチャンクカード

1	Hello. May I help you?	こんにちは。いらっしゃいませ。
2	Yes. I'll have a hamburger, a small French fries, and a cola, please.	ええ。ハンバーガー1つ、小のフレンチフライ1つとコーラ1つをください。
3	Which size cola would you like, small, medium, or large?	小、中、大のうちどのサイズのコーラがいいでしょうか。
4	Medium, please.	中サイズを下さい。
5	For here or to go?	こちらでめしあがりますか、お持ち帰りになりますか。
6	For here, please.	ここで食べます。
7	Would you like anything else?	ほかに何かいかがですか。
8	No. That's all. Thanks.	いいえ。以上です。ありがとう。
9	OK. That'll be \$ 3.80, please.	分かりました。3ドル80セントになります。
10	Here you are.	はいどうぞ。
11	Thank you. Here's your change.	ありがとう。おつりです。
12	Thank you.	ありがとう。
13	You're welcome.	どういたしまして。

MENU				
FOOD		DRINKS		
		SMALL	MEDIUM	LARGE
hamburger	\$1.00	orange juice \$1.50	\$1.80	\$2.30
cheeseburger	\$1.20	apple juice	\$1.50	\$1.80
green salad	\$1.75	ginger ale	\$1.30	\$1.60
apple pie	\$1.00	milk	\$1.00	\$1.30
French fries	SMALL \$1.00	cola	\$1.30	\$1.60
	LARGE \$2.00	coffee	\$1.00	\$1.30
		tea	\$1.00	\$1.30

図5 メニュー表

[Step3] 次の2つの状況の場合、①～⑧の()内に適切な英語を入れてみよう。状況に応じて入る単語を考えよう。値段は、教科書のP53の表を見よう。

ハンバーガーを注文してみよう!

【A】(店員)	【B】(客)
Hello. May I help you?①	
②	Yes. I'll have (①), please.
Which size (②) would you like, (③) (④), or (⑤)?②	
③	(⑥), please.
For here or to go?③	
④	(⑦), please.
Would you like anything else?④	
⑤	No. That's all. Thanks.
OK. That'll be (⑧), please.⑤	
⑥	Here you are.
Thank you. Here's your change.⑥	

(1) 財布の中には2ドルしかない。お腹がすいているし、のども乾いている。店内で食べる。
 ① () ② () ③ ()
 ④ () ⑤ () ⑥ () ⑦ () ⑧ ()

図6 提示場面の対話を書くWS

You have eight dollars.



What will you have?

図7 場面設定のスライド

[Step4] あなたは、アメリカのL.A. (ロサンゼルス)でホームステイをしています。お腹がすいたのでファーストフード店に入ることにしました。

レベルの高い対話文を声に出して読もう!

～パターンA～ ※口はお客のセリフです。

1. いらっしゃいませ。ご注文をどうぞ。	Hello. What would you like?
2. (メニューの写真を指で差しながら) これを1つとこれを1つ下さい。	(Pointing the pictures of menu.) I will have this one and this one.
3. ハンバーガー1つとコーヒーのMを1つ。	One hamburger and a medium coffee, please.
4. ハンバーガー1つとコーヒーを1つ。	One hamburger and a coffee, please.
5. コーヒーにはS,M,Lの3サイズございますが、どれにいたしますか?	We have 3 sizes of coffee: small, medium and large. Which size would you like?
6. Sをください。	Small, please.
7. コーヒーのMとLを1つずつ下さい。	Two coffees, please. One Medium and one large.
8. ハンバーガー1つとポテトのSを1つ。以上でよろしいでしょうか?	One hamburger and one small French fries. Anything else?
9. はい、それで全部です。	That's all.

～パターンB～ ※ちょっとレベルの高いやりとり!

10. セットメニューはありますか?	Do you have any combos on your menu?
11. はい、ございます。こちらがセットメニューです。(メニューを指差しながら)	Yes, we have these combos. (Pointing the pictures of menu.)
12. はい、ございます。こちらのセットメニューがハンバーガー、お飲物、そしてサラダまたはフライドポテトのセットとなります。	Yes. You can choose a salad of French fries with this combo. Which would you like?
13. お飲物はジュース、コーラ、コーヒーまたは紅茶がございます。どれにいたしますか?	We have juice, cola, coffee or tea. What drink would you like?
14. セットAをコーラの上で。	I will have Combo A with a large coke.
15. 申し訳ございません。このセットにLサイズのお飲み物はつきません。Mサイズのみです。	I'm sorry, a large drink doesn't come with this combo. You can choose only a medium sized drink for this combo.

[Step5] 店内で注文する対話文を作り、お客の部分演技してみよう。

[条件] ①お客の役は1名、もしくは2名までとし、班内で決めることとします。

②今日の発表では、店員役のセリフを「ウォーレン先生」にお願いします。

図8 教科書以外の表現例

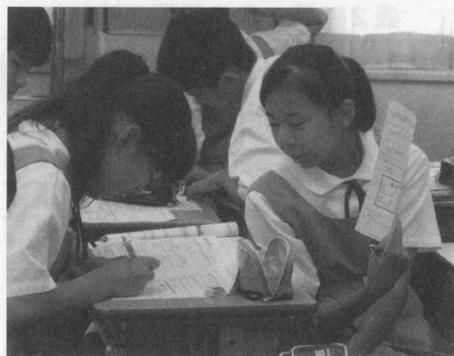


図9 ペアで対話文を作成する様子

〈第2次〉

既習事項の定着を図るために、前時に使用したチャックカードを用いた反復練習を行った。次時に行う発表会に向けての発表の視点と評価について説明した。(図10)

ペアで対話文を考えて書く時間を設けた。生徒には教科書、ワークシートを活用して書くこと、所持金は20ドルとするように説明し、使うメニュー表も固定して対話文を書かせた。これまで教科書で学んだ慣用表現を用いて、一部を変えて対話文を作り、ペアで発表をする活動は何度か行っている。しかし、対話文すべてをオリジナルにしてしまうと難易度に大きな差が出てしまう。そこでペアで対話文を作る時には、ある程度の金額と買うものを固定することで、難易度が均一になるようにした。生徒は、ペアで相談して作った対話文を覚えて発表した。発表の際には、評価の視点である①声の大きさ②表現の工夫に気を配りながら発表していた。具体的な学習の流れは表2に示す。

[Step2] ペアで順番に前に出て、ハンバーガーショップでの対話をします。聞きながら下の表に記録してください。ただし、自分の名前および自分のペアは記入せず、しかも、自分の評価を書く必要はありません。

【評価項目】

- ①声の大きさ・・・後ろまでよく聞こえていたかどうか。
- ②表現の工夫・・・アイコンタクトをとったり、お金を渡したりする動作ができていたかどうか。

評価項目を満たしている人の名前	演じた役割 店員 客	評価 (A・B・C)		何が良かったかを一言でコメント
		声の大きさ	表現の工夫	

図10 評価に関するワークシートの抜粋

表2 第2次の学習の流れ

①英語で挨拶を行い、本時の学習課題を確認する。 ・自己評価カードに学習目標を記入させ、本時の課題について考えさせる。
②前時に配布したチャンクカードを使って、既習表現の定着を確認する。
③ペアで対話文を作る活動を行う。 ・既習事項を活用したり、辞書を用いたりしながら英文を書かせる。 ・机間指導をして、適宜スペルチェックや発音チェックを行う。
④発表に対する評価の視点を説明する。 ・セリフを覚えている。 ・大きな声で言えている。 ・お金を用いてジェスチャーをつけて演じている。 ・ペアで発表練習をする。
⑤次時の学習について考え、見通しを持たせる。 ・自己評価カードに授業の振り返りを書かせる。

持続させられるようにしたい。

生徒の振り返り
○ペアで注文する場面の対話を作ってから実際にお金を使ってペアで発表できた。
○注文の仕方が分かり、自分たちで対話文を作って覚え、発音に気をつけて発表できたし、ジェスチャーもつけられた。
△ジェスチャーをつけて言ったがもっとジェスチャーをつけて言えばよかった。

5 考察

生徒が書いた対話文(図11)を見ると、教科書のモデル文をそのまま覚えるのではなく、ペアと相談して単語や文章を一部変えながら書いたのが分かる。また、ペアと相談しながら対話文を考えて書くことで、話の流れを理解し、必要なジェスチャーも考えながら学習を進めることができていた。また、今回はアメリカドルの数え方や単位を学習したので、発表ではおもちゃのお金(ドル紙幣とコイン)を使いながら支払いの場面まで行うように指導をした。結果として支払いの場面で必要なジェスチャーやお金の数え方、おつりの計算も含めて指導することができた。生徒の振り返りを見ると、ジェスチャーに触れて書いている生徒が多かった。今回は買い物という生徒にとって身近で親しみのある教材であったので、意欲的に取り組めた生徒が多かった。英語の学習が好きであると答える生徒が少しでも増えるように、今後も教材の使い方に工夫を凝らし、生徒の興味関心を

書のはじめには、担当の名を入れますよ!
セリフ
Hello. May I help you?
Yes. I'll have two cheeseburgers, two green salads, an apple pie, two large French fries, a medium orange juice, and a cola, please.
Which size cola would you like, small, medium, or large?
Large, please.
For here or to go?
To go, please.
Would you like anything else?
No. That's all. Thanks.
OK. That'll be \$14.6, please.
Here you are.
Thank you.

図11 生徒Aの対話文原稿

<引用文献・参考文献>

- 1) 文部科学省：『中学校学習指導要領解説 外国語編』，2008。
- 2) 松尾砂織・小廣川和恵・安松洋佳・榎葉みつ子・柳瀬陽介・松宮奈賀子：「新学習指導要領の下での授業実践―小中連携を意識した学習指導について(1)―」，広島大学 学部・附属学校共同研究機構研究紀要，第41号，pp. 219-228，2012。
- 3) 松尾砂織・小廣川和恵・デミール千代・瀧山真悟：「平成25年度幼小中一貫教育研究会外国語部会研究構想」，2013。